

科目ナンバリング		G-AAA05 55101 LB31									
授業科目名 <英訳>		地域研究論 Introduction to Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
通常科学（normal science）とは異なった地域研究の、学としての性格・歴史・成果・展望・課題などについて、研究科教員がオムニバス形式で自己の研究を踏まえて論じます。											
【到達目標】											
地域研究に関する多様な視点を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回「オリエンテーション」 第2回「研究作法入門」 第3回「課題解決型の超学際研究」 第4~5回「理論と直観: フィールドの事象をゲーム理論でモデル化する」 第6回「学術論文の書き方」 第7回「研究者の立ち位置について」 第8回「持続型生存基盤論」 第9回「環境史入門」 第10~11回「渡航医学」 第12回「地域研究と制度論」 第13回「地域研究におけるマルチメディア・オンライン資料の活用」 第14回「環境の定量と不確実性」 第15回「フィードバック」											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者はその課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を教務掛あてに提出して下さい。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。											

地域研究論(2)へ続く

地域研究論(2)

[教科書]

適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1週の「オリエンテーション」では、受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全教員にあらかじめ配布します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

アジア・アフリカ地域研究演習(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

第1週の「オリエンテーション」では、受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全教員にあらかじめ配布します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75103 PJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア地域研究公開演習 Open Seminar on Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75104 PJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究公開演習 Open Seminar on African Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75105 PJ31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究公開演習 Open Seminar on Global Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 55131 PB31											
授業科目名 <英訳>		研究発信トレーニング Training on Research Presentation I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科		准教授 教授 准教授		山口 元樹 高橋 基樹 池亀 彩	
配当 学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
海外で学術調査をおこなうための研究計画書を作成する諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による研究計画書作成するための技術を獲得するとともに、計画書作成を通じて今後の研究の方向性や具体的なすすめ方をより明確にしていくことをめざす。													
【到達目標】													
海外で学術研究調査を実施する際に必要な研究計画書が作成できるようになる。また、そのことを通じて研究の方向性や具体的な進め方を明確にする能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
(A) 以下の項目にそって講義と指導を受ける（講義4回相当分） ・ 海外学術調査をおこなううえで研究計画書を作成することの重要性、および学術調査を予定している国および地域に関して事前に収集すべき情報について。 ・ 研究計画書を作成するうえで重要な研究目的、調査対象、調査方法、および調査日程をより具体的に検討していく方法。 (B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文研究計画書を作成する（講義4回相当分） (C) 和文調査計画書を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で研究計画書を作成する（講義4回相当分） (D) 受講生全体で、各受講生の研究計画書を発表する。それに対して、担当教員が講評をおこなう（講義3回相当分）													
【履修要件】													
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。													
【成績評価の方法・観点】													
講義への出席、和文と外国語による研究計画書の作成・提出、発表会への参加を加味しながら、担当教員が評価する。													
【教科書】													
適宜指示する。													
----- 研究発信トレーニング (2)へ続く -----													

研究発信トレーニング (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
適宜指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に調査研究対象とする地域・国に関する基礎情報を予習しておくこと。
研究計画書を作成して発表に臨むこと。発表の際に受けたコメント・助言に応じて修正を施して復習とすること。

(その他（オフィスアワー等）)

この講義は、研究計画書作成技術のトレーニングを目的としているため、この講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から研究内容について綿密に指導をうけて研究計画書を作成すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75132 PB31											
授業科目名 <英訳>		研究発信トレーニング Training on Research Presentation II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科		准教授 教授 准教授		山口 元樹 高橋 基樹 池亀 彩	
配当 学年	3-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
海外で自らの研究成果を発信するために必要な諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による高いレベルの口頭発表の技術を学び、その作業を通して研究者として必要な自己表現の方法や必要な外国語能力を修養する。													
【到達目標】													
母国語以外の言語で開催される国際学会、シンポジウム、ワークショップ等の研究集会において研究の成果を発信することができるようになる。													
【授業計画と内容】													
(A) 以下の項目にそって講義と指導を受ける（講義4回相当分） ・海外で口頭発表するにいたるまでの準備についての講義と指導。 ・外国語で口頭発表をおこなううえで重要な資料準備の具体的な方法および留意的についての講義と指導。 (B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文による口頭発表のための資料準備をおこなう（講義4回相当分） (C) 和文の口頭発表資料を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で発表資料を作成する。担当教員が適宜個別に指導をおこなう（講義4回相当分） (D) 受講生全体で、外国語による口頭発表会をおこなう。担当教員は、各受講者の口頭発表に関して技術的な講評をおこなう（講義3回相当分）													
【履修要件】													
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。													
【成績評価の方法・観点】													
口頭発表資料の作成・提出、発表会への出席およびその発表内容・発表技術を加味し、担当教員が評価する。													
【教科書】													
適宜指示する。													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する 適宜指示する。													
【授業外学修（予習・復習）等】													
口頭発表をおこなう研究成果の内容と発表構成を、事前に母国語によって十分に準備しておくこと。													
(その他（オフィスアワー等）)													
この講義は、外国語による口頭発表技術のトレーニングを目的としているため、講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から発表内容について綿密に指導をうけて口頭発表資料を作成すること。													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA05 85134 OB31									
授業科目名 <英訳>		院生発案国際共同研究 International Research-Group Program for Graduate Students				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科		准教授 山口 元樹 教授 高橋 基樹 准教授 池亀 彩	
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態		使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域研究の諸課題について、分野・地域横断的に、院生が主体となって国際共同研究グループを組織して国際ワークショップなどを企画する。											
【到達目標】											
地域研究の諸課題についての国際共同研究グループの組織・運営および成果発表とその準備の過程をつうじて、国際的な研究交流および研究経営の能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
(A) 院生の主体的な発案によって国際研究グループを組織し、参加する（講義4回相当分） (B) 担当教員と指導教員とともに国際研究集会の企画と発表の準備を行う（講義4回相当分） (C) 国際研究集会を実施し、研究成果を発表する（講義4回相当分） (D) 報告書を作成する（講義3回相当分） その後、学術誌等において成果を発表していくことが望ましい。											
【履修要件】											
臨地演習の単位を取得済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
プログラムへの積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
特に定めない。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
選択した課題およびその関連テーマについて、広く予復習を求める。 自らの研究関心にとどまらず、地域や分野を超えた関連テーマについて積極的に学ぶ姿勢が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
プログラム実施の詳細は臨地教育支援センターの定めるところによる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85107 LE31									
授業科目名 <英訳>		環境・感染症論 Environment and Infection				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 山崎 渉			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>教員による講義および受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッションを通して、感染症を総合的に理解する。特に環境・ヒト・病原体間における相互作用の理解を深める。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても社会生態学的視点から学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>感染症を総合的に理解するために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を社会生態学的視点から捉える能力を修得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第9回は講義、第10回～第15回はプレゼンテーション・グループディスカッションになる見込みである。</p> <p>第1回 総論 第2回 動物種を越える病原体の伝播 第3回 食品衛生 第4回 水と健康 第5回 蚊・マダニ媒介性感染症 第6回 プリオン病 第7回 薬剤耐性 第8回 生物兵器・バイオテロ・病原体の漏出事故 第9回 インフォデミック 第10回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅠ 第11回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅡ 第12回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅢ 第13回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅣ(参加者数によっては自習) 第14回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅤ(参加者数によっては自習) 第15回 プレゼンテーション・グループディスカッションⅥ(参加者数によっては自習)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>【評価方法】</p> <p>成績評価は出席姿勢（30％）、受講生によるプレゼンテーション(50％)とそれに基づくグループディスカッション(20％)における理解度、積極性、洞察力、意思表示の能力をもとに判定する。プレゼンテーションをしない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。</p> <p>【評価基準】</p> <p>100点満点中、60点以上となること（60点以上：合格 59点以下：不合格）。</p>											
-----環境・感染症論(2)へ続く-----											

環境・感染症論(2)

[教科書]

教科書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。

[参考書等]

(参考書)

参考書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。

(関連URL)

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/>(東南アジア地域研究研究所)

<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/>(医学研究科 社会健康医学専攻 環境生態学)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義資料等を活用した予習・復習を推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

【連絡先】

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46

京都大学東南アジア地域研究研究所 東棟E309号室

山崎 渉

Tel: (075) 753-9618

Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85136 LB31									
授業科目名 <英訳>		開発生態論 Development and Ecology				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
The topics covered in this course will be rural development, environmental protection, and natural resource use in various areas in the world including Asia and Africa. We will encourage the students to think for themselves as we discuss questions such as what standpoints to assume when conducting our research, which approach we should take to the issues we are researching, and who the audience for the results of our research should be.											
【到達目標】											
To obtain the ability to understand the structure and dynamics of local society, to contextualize them in the global context and to express the idea in the interdisciplinary space											
【授業計画と内容】											
I plan to spend around 3 weeks on each of the following issues. However, there may be changes depending on how well the students understand the content. Lectures may also be given in English, depending on the students' needs. 1. Structure of nature and society at the regional and local context (1st to 3rd week) 2. Development, accerelator of development and consequences of development (4th to 6th week) 3. Structure and dynamism of natural ecosystem (7th to 9th week) 4. Impact of human intervention on ecosystem and ecosystem embedding human society (10th to 12th week) 5. Transformation of local society (13th to 15th week)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Students will be evaluated on the basis of attendance and a proactive attitude during class.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
Will be indicated in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
I want students to participate actively and speak up in class. I do not set any particular office hours, but students who want to speak to the instructor directly outside of class should e-mail <kono@cseas.kyoto-u.ac.jp>.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85135 LE31									
授業科目名 <英訳>		地域研究と比較政治学 Area Study and Comparative Politics				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 Pavin Chachavalpongpun			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態		使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
This course focuses on a wide range of literatures on comparative politics. In keeping with the spirit of comparative political science, most lectures involve a key paired comparison of two countries. We will also demonstrate how paired comparisons are changeable, given the types of questions one is pursuing. We will concentrate on six countries in Southeast Asia: Indonesia, the Philippines, Malaysia, Vietnam, Thailand and Burma. To fulfill the purpose of this course, we will discuss key themes from a comparative perspective, including the study of institutions, state formation and state-society relations, types of regime, political culture, political economy, and resistance and revolution.											
【到達目標】											
To encourage students to think beyond the normative understanding of "Southeast Asia" and look into critical contemporary issues facing the region--issues that had their historical origin. Also, to expect student's active participation in class discussion, from the students' viewpoint that may challenge and contest the normative understanding of this region.											
【授業計画と内容】											
Class Schedule											
1. Introduction											
2. Southeast Asia: Natural Region or Production of Power/Knowledge?											
Donald Emmerson, “ ‘ Southeast Asia: What ’ s in a Name? ” Journal of Southeast Asian Studies (March 1984).											
Duncan McCargo and Robert H. Taylor, “ Politics, ” An Introduction to Southeast Asian Studies, ed. Mohmmmed Halib and Tim Huxley (1996).											
3. State Formation and Colonialism											
John S. Furnivall, The Fashioning of Leviathan: The Beginnings of British Rule in Burma (Canberra: The Australian National University Press, 1991).											
4. Nationalism and Southeast Asia											
Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism (London: Verso, 1992).											
5. Southeast Asia and the World											
Benedict Anderson, The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World (London: Verso											
----- 地域研究と比較政治学(2)へ続く -----											

地域研究と比較政治学(2)

1998).

6. Military Rule: Burma and Indonesia

Mary Callahan, “ Burma: Soldiers as State Builders, ” in Muthiah Alagappa (ed) Coercion and Governance: The Declining Political Role of the Military in Asia (2001).

Vince Boudreau, Resisting Dictatorship (2004), ch 4.

Adam Schwarz, A Nation in Waiting: Indonesia in the 1990s, ch 2.

7. Democratic stagnation: Thailand and the Philippines

Baker and Phongpaichit, A History of Thailand, chs 6,7.

Abinales and Amoroso, State and Society in the Philippines (2005), ch 8.

Pavin Chachavalpongpun, ed., Coup, King, Crisis: A Critical Interregnum in Thailand (2020).

8. Party Rule: Vietnam and Malaysia

William Case, Politics in Southeast Asia (2002), ch. 4.

Gareth Porter, Vietnam, ch. 1.

9. Authoritarianism and Separatism

Jacques Bertrand, Nationalism and Ethnic Conflict in Indonesia, ch 8.

Ivan Molloy (1988) “ The Decline of the Moro National Liberation Front in the Southern Philippines, ” Journal of Contemporary Asia, 18, 1.

10. Democratisation: National/Local, Rural/Urban Struggles: Philippines and Thailand

Abinales and Amoroso, State and Society in the Philippines, chs 9 and 10.

Anek Laothamatas, “ A tale of two democracies: Conflicting Perceptions of elections and democracy in Thailand, ” in Robert Taylor (ed.), The Politics of Elections in Southeast Asia (1996).

John Sidel, “ Democratisation and Bossism in Contemporary Thailand and the Philippines, ” IDS Bulletin, 27, 2 (April 1996).

11. Democratisation: Stalled: Burma and Vietnam

Benedict Kerkvliet, “ Village-State Relations in Vietnam: The Effect of Everyday Politics on Decollectivisation ” (Journal of Asian Studies, 54, 2, 1995).

地域研究と比較政治学(3)へ続く

地域研究と比較政治学(3)

Kyaw Yin Hlaing, " The Politics of State-Society in Burma, " South East Asia Research, 15, 2, 2007).

12. Democratisation: Now That He ' s Gone... Indonesia and Malaysia

William Case, " Malaysia: New Reforms, Old Continuities and Tense Ambiguities, " Working Paper Series, No. 51, Sep 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Vedi Hadiz and Richard Robison, " Neo-Liberal Reforms and Illiberal Consolidations: The Indonesian Paradox, " 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Meredith Weiss, " What a Little Democracy Can Do: Comparing Trajectories of Reform in Malaysia and Indonesia, " Democratisation (14, 1, 2007).

13. The Military

Mary P. Callahan, War and State-Building in Burma (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

Greg V. Raymond, Thai Military Power: A Culture of Strategic Accommodation (Copenhagen: NIAS, 2018).

14. Social Movements

Vincent G. Boudreau, Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia (London: Cambridge University Press, 2005).

Aim Sinpeng, Opposing Democracy in the Digital Age: The Yellow Shirts in Thailand (Michigan: University of Michigan Press, 2021)

15. Legitimacy

Muthiah Alagappa, ed., Political Legitimacy in Southeast Asia (Stanford, CA: Stanford University Press, 1995).

【履修要件】

Each student is required to read the week ' s assignment in its entirety before coming to class. (The books/ articles are available at the CSEAS library.) Each student will write a 2-3 page critical review essay on one of the readings to be submitted the day before class (so I can read it and prepare my comments). If you fail to submit the essay on time, you need not appear in class. One student will be assigned to lead each week ' s discussion. The reflection essay is not a mere summary of the book/article. It should contain at the very least:

- a. The book ' s or books ' main thesis/theses (or in other words, what is the author trying to convince us of?)
- b. The manner in which the author supports the thesis (or how the author uses evidence to support his/her arguments)
- c. Other issues that are raised as supplementary themes or sub-themes

地域研究と比較政治学(4)

d. The significance of the book(s) to Southeast Asian studies and to comparative politics
Your essays should examine the themes more in depth than the readings allow. They should be comparative in scope; that is, compare and contrast between two countries.

【成績評価の方法・観点】

The student grade is divided into the following: essays (70%); contribution to class discussion (20%); attendance (10%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism* (London: Verso, 1992).

Benedict Anderson, *The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World* (London: Verso 1998).

Vincent G. Boudreau, *Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia* (London: Cambridge University Press, 2005).

Mary P. Callahan, *War and State-Building in Burma* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

Pavin Chachavalpongpun, *A Plastic Nation: The Curse of Thainess in Thai-Burmese Relations* (Lanham: University Press of American, 2005).

Noorhaidi Hasan. *Laskar Jihad: Islam, Militancy and the Quest for Identity in Post-New Order Indonesia* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 2007).

Paul D. Hutchcroft, *Booty Capitalism: The Politics of Banking in the Philippines* (Ithaca, New York: Cornell University Press, 1998).

Andrew MacIntyre, *The Power of Institutions: Political Architecture and Governance* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2002).

Alfred W. McCoy, *An Anarchy of Families: State and Family in the Philippines* (Madison: University of Wisconsin Press Center for Southeast Asian Studies, 1993).

Vicente Rafael, ed. *Figures of Criminality in Indonesia, the Philippines and Colonial Vietnam* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 1999).

James C. Scott, *The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia* (New

地域研究と比較政治学(5)へ続く

地域研究と比較政治学(5)

Haven and London: Yale University Press, 1977).

James C. Scott, Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed (New Haven and London: Yale University Press, 1998).

James C. Scott, Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance (New Haven and London: Yale University Press, 1985).

[授業外学修（予習・復習）等]

Sometime students will be requested to study out of class and will be assigned to read class materials, to make a summary and possibly to make a presentation in class later.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 55124 FJ31									
授業科目名 <英訳>		臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域の全体像を理解するために必要な現地語の習得を目標として、受講生が現地に行き、そこで専門性の高い語学トレーニングを受ける。											
【到達目標】											
地域の全体像を理解するために必要な現地語の基本的事項を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員が設定した語学習得プログラムに沿って学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員とともに現地での語学習得計画を立てる（講義2回分） ・現地にて40日以上滞在して語学トレーニングを受ける（講義12回分） ・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回分） <p>（合計15回）</p>											
【履修要件】											
<p>1.2年次に40日以上渡航した者。証明を添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。</p> <p>https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf</p>											
【成績評価の方法・観点】											
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。											
【教科書】											
受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。</p>											
【授業外学修（予習・復習）等】											
現地に赴くまえに、対象語学に関連した情報を収集して予備的な知識の蓄積が必要である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75125 FJ31									
授業科目名 <英訳>		臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
地域研究の成果を国際的に発信する力の強化を目標として、受講生を各々の研究分野に最もふさわしい研究機関等に派遣し、そこで専門性の高い研修・発表を行う。											
[到達目標]											
自ら行った地域研究の成果を国際的に発信することができる。											
[授業計画と内容]											
派遣先の研究機関等で、受講者の研究に関する専門性の高い研修・発表を行う。 ・指導教員とともに現地での語学習得計画を立てる（講義2回相当分） ・指導教員とともに国際集会での外国語発表を準備する（講義3回相当分） ・現地にて国際集会に参加し外国語での発表を行い議論への参加をする（講義9回相当分） ・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回相当分） （合計15回）											
[履修要件]											
国際研究集会において日本語(留学生は母国語)以外で研究報告等した者。プログラム、報告論文、参加証等の写しを添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。											
[教科書]											
受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[参考書等]											
（参考書） 受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
派遣先に赴くまえに、自らの研究成果を整理し、派遣先で会う研究者に説明できるように準備が必要である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85201 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語 (初級) Thai I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時間	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】 1. オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2. 発音練習 母音、声調、子音 3. 第1課 1. 1～1. 3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる 4. 第1課 1 けたの数字、 5. 第2課 2. 1～2. 3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる 6. 第2課 2. 4～3 けたの数字 挨拶、否定の表現 7. 第3課 3. 1～3. 3 職業を紹介する、尋ねる 8. 第3課 3. 4～3. 6 完了、予定の表現 9. 第3課 数字に関する表現 10. 第4課 4. 1～4. 3 継続の表現 11. 第4課 職業の表現 12. 第5課 5. 1～5. 2 品詞と語順 13. 第5課 5. 3 親族名称 可能の表現 14. 総括 15. フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
【成績評価の方法・観点】											
各課学習後の課題（およそ500点）、総合の課題（およそ100点）を合計し、100点満点に換算して評価する。											
【教科書】											
宮本マラシー・村上忠良『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-333-4 C3087											
----- タイ語 (初級) (2)へ続く -----											

タイ語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

タイ語（初級）(2)

【成績評価の方法・観点】

講義中の小テスト（およそ500点）、学期末テスト（およそ100点）を合計し、100点満点に換算して評価する。

【教科書】

宮本マラシー・村上忠良『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

【参考書等】

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85204 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語 (初級) Indonesian I				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。											
1.イントロダクション 2.名詞文 3.発音と表記法 4.人称代名詞 5.基語動詞 6.ber-動詞 7.meN動詞 8.7回までの学習内容の確認 9.アスペクト、助数詞 10.疑問文、疑問詞 11.受動 12.時間表現 13.接尾辞 -an 14.接頭辞 pe-, peN- 15.前期学習内容の確認											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価100% なお平常点評価には、語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。											
----- インドネシア語 (初級) (2)へ続く -----											

インドネシア語（初級）(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

（その他（オフィスアワー等））

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85205 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語 (初級) Indonesian II				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的表現の復習 2. 程度の副詞、接頭辞 se- 3. 比較級、最上級 4. 接頭辞 ter- 5. 前置詞 6. 接続詞 7. 関係詞 yang 8. 7回までの授業内容の確認 9. 接辞 peN-an、 per-an 10. 複合語、接辞 ke-an 11. 命令文 12. meN-kan動詞、 meN-i 動詞 13. memper 動詞 14. 畳語 15. 後期の授業内容の確認 											
【履修要件】											
インドネシア語 I (初級) の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点100%。 なお平常点には語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。</p>											
----- インドネシア語 (初級) (2)へ続く -----											

インドネシア語 （初級）(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

ビルマ（ミャンマー）語Ⅰ（初級）（2）

[教科書]

加藤昌彦 『ニューエクスプレス+ ビルマ語』（白水社）ISBN:978-4560088142

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。
- ・ 授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85209 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語 （初級） Vietnamese I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。 ・挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。 ・言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
テキストに従い以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある。											
第1回 ガイダンス 第2 - 4回 ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5 - 6回 7課 第7 - 8回 8課 第9 - 10回 9課 第11-12回 10課 第13-14回 11課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）ISBN:978-4757424173 吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）ISBN:978-4757430877 その他、授業中に適宜紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
予習 ・テキストに目を通し、付属のCD音声を聞いておく。 復習 ・CD音声を再生しながら、本文を音読する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85210 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語（初級） Vietnamese II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる。 ・現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話を行うことができる。 ・言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。 											
[授業計画と内容]											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1－2回 12課 第3－4回 13課 第5－6回 14課 第7－8回 15課 第9－10回 16課 第11－12回 17課 第13－14回 18課 第15回 まとめ											
[履修要件]											
ベトナム語 を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する。											
[教科書]											
清水政明『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語（初級）(2)へ続く -----											

ベトナム語 （初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）ISBN:978-4757424173

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）ISBN:978-4757430877

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のＣＤ音声を聞いておく。

復習

- ・ ＣＤ音声を再生しながら、本文を音読する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85211 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語 （中級） Vietnamese III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
Participants will practice translating the Vietnamese materials, which they use to write their preliminary doctoral thesis (master ' s thesis), into Japanese, in order to improve their reading comprehension skills in Vietnamese.											
【到達目標】											
Through reading articles and papers, participants will be able to understand the outline without using a dictionary.											
【授業計画と内容】											
Participants should prepare for each lesson before coming to class.											
【履修要件】											
For those who have already learned Vietnamese for beginners. Since we will practice translating Vietnamese into Japanese, it is limited to those who have appropriate Japanese language ability.											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation will be based on active participation.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
Attend class after translating the Vietnamese text into Japanese every time.											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85221 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (初級) Arabic I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の基礎文法の習得を目指します。											
[到達目標]											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
[授業計画と内容]											
<p>アラビア語の基礎文法について次の事項を中心に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) アラビア語の概説 (2) 文字と発音 (3) 品詞分類 (4) 名詞の性・数・格変化(イウラーブ) (5) 人称代名詞・指示代名詞 (6) 名詞文 (7) 名詞の修飾関係 (8) 属格連結(イダーファ) (9) 関係形容詞(ニスバ) (10) 語根の概念と動詞の原型 (11) 動詞の類型 (12) 動詞の活用(完了形) (13) 派生語 (14) 行為者名詞・受動名詞 (15) 動詞の活用(未完了形) 											
[履修要件]											
<p>アラビア文字が学習済みであること。 大学院レベルのアラビア語の授業をしますので、初歩的な解説を希望の学生は学部開講科目を受講してください。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(出席および授業中に出される課題)											
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----											

アラビア語（初級）(2)

【教科書】

小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018）

【参考書等】

（参考書）

竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』（白水社、2013）

竹田敏之『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019）

Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.)『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』（4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994）

【授業外学修（予習・復習）等】

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

（その他（オフィスアワー等））

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85222 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (初級) Arabic II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の文法理解をさらに深め、読解力の向上を目指します。											
【到達目標】											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>文法については次の事項を中心に学びます。</p> <p>(1) 受動態</p> <p>(2) 動詞の用法 (接続法・要求法)</p> <p>(3) 命令形</p> <p>(4) 助詞の用法</p> <p>(5) 比較級・最上級</p> <p>(6) 対格の特殊用法</p> <p>(7) カーナの用法と動詞の時制</p> <p>(8) 派生形</p> <p>(9) 正動詞と弱動詞</p> <p>(10) インナとその姉妹語</p> <p>(11) 関係代名詞</p> <p>(12) 条件文</p> <p>(13) 数詞の用法</p> <p>(14) 辞書学</p> <p>(15) 韻律と脚韻</p>											
【履修要件】											
アラビア語 を履修済みであること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 (出席および授業中に出される課題)											
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----											

アラビア語（初級）(2)

【教科書】

小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018）

【参考書等】

（参考書）

竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』（白水社、2013）

竹田敏之『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019）

Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.)『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』（4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994）

【授業外学修（予習・復習）等】

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこよう。

（その他（オフィスアワー等））

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85223 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 （中級） Arabic III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。											
【到達目標】											
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3～4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。											
【履修要件】											
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席および授業中のパフォーマンス）。											
【教科書】											
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 （ Bayrut: Turath, 2005 ）											
【参考書等】											
（参考書） 竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』（白水社、2013） 竹田敏之 『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019） Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.) 『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』（4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994） その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。											
（その他（オフィスアワー等））											
教科書については、初回の授業で説明します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85227 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ペルシア語 （初級） Persian I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ペルシア語は、アラビア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。											
【到達目標】											
ペルシア語の基本文法を習得し、初級の講読ができるようになると同時に、現地に行った際、最低限の会話ができるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
テキストに基づき毎週進み、ペルシア語初級文法を半年で習得するとともに、講読の訓練を行う。											
1．イントロダクション 2～14．基本文法を教科書に従って学んだ後に、講読を行う。 15．全体のまとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。											
【教科書】											
吉枝聡子 『ペルシア語文法ハンドブック』（白水社）ISBN:9784560085691 岡田恵美子 『ペルシャ語基本単語2000』（語研）ISBN:978-4-87615-663-4											
【参考書等】											
（参考書） 黒柳恒男 『ペ日・日ペ 現代ペルシア語辞典（合本）』（大学書林） 西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』（ミネルヴァ書房, 2021年）ISBN: 9784623091782（30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。） その他、授業中に紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
テキストは毎回予習することが必要である。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。											
（その他（オフィスアワー等））											
小テストを行うため、十分な予習・復習が必要である。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

トルコ語Ⅱ（初級）(2)

【成績評価の方法・観点】

小テストを含む平常点で採点しますが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もあります。

【教科書】

教科書 勝田茂 『中級トルコ語 読解と応用作文』（大学書林、2007）ISBN:978-4-475-01882-11

教科書 勝田茂 『トルコ語文法読本』（大学書林、1986）ISBN:978-4-475-01778-7

【参考書等】

（参考書）

林徹 『トルコ語文法ハンドブック』（白水社、2013）ISBN:978-4-560-08621-6

宮下遼 『トルコ語（世界の言語シリーズ16）』（大阪大学出版会、2021）ISBN:978-4-87259-341-9

【授業外学修（予習・復習）等】

語学は絶え間ない予習と復習の繰り返しによってしか習得できないので、各回の予復習には相当の時間をかけてください。また、講義内容として示している通り皆さんの予習を前提として授業を進めていくこととなるので、そのつもりで授業に臨んでいただければと思います。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85229 LJ48									
授業科目名 ＜英訳＞		ヒンディー語 （初級） Hindi I				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒンディー語の初等文法を習得する。 2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。 3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。 4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>注意</p> <p>前期の「ヒンディー語I（初級）」は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜4・5限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、文字 2~3. 文字と発音 4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める ＜前期・期末試験＞ 15. フィードバック 											
----- ヒンディー語（初級）(2)へ続く -----											

ヒンディー語 （初級）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

【教科書】

田中敏雄・町田和彦『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明『ヒンディー語＝日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8
Snell, Rupert and Simon Weightman『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85230 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語 (初級) Hindi II				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒンディー語の初等文法を習得する。 2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。 3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。 4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期からの続きで、全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ハリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。</p>											
<p>注意</p> <p>前期の「ヒンディー語I (初級)」は金曜4・5限に授業を行い6月9日を最終授業とするが、後期の「ヒンディー語II (初級)」は毎週金曜5限に授業を行う。</p>											
<p>1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める</p> <p>11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習</p> <p><後期・期末試験></p> <p>15. フィードバック</p>											
<p>----- ヒンディー語 (初級) (2)へ続く -----</p>											

ヒンディー語 （初級）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

【教科書】

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語＝日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8
Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85236 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語特講I Special Course in Hindi I				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>1.複雑な文章を精読できるようになる。 2.日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3.自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4.単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話など 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<p>語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p>											
<p style="text-align: right;">----- ヒンディー語特講I(2)へ続く -----</p>											

ヒンディー語特講I(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85237 LJ48									
授業科目名 ＜英訳＞		ヒンディー語特講II Special Course in Hindi II				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>1.複雑な文章を精読できるようになる。 2.日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3.自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4.単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌など 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<p>語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40％） 期末試験あるいはレポート（60％）</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p>											
<p style="text-align: right;">----- ヒンディー語特講Ⅱ(2)へ続く -----</p>											

ヒンディー語特講II(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<https://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran (インドのヒンディー語新聞))
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85233 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ネパール語I（初級） Nepalese I				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 非常勤講師 橘 健一			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語の言語学的な位置づけを確認したうえで、文法の基礎を解説する。さらに課題により、参加者が基本的な会話能力、読み書き能力を身につけられるよう促していく。											
【到達目標】											
ネパール語の文法の基礎を理解し、会話、読み書き能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回にネパール語の言語学的な位置づけを解説し、第2回から第15回まで、文法の解説ならびに会話、読み書きの練習をおこなう。参加者の習熟度を確認しつつ、適宜、計画と内容を決定する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点と小テストによる。											
【教科書】											
下記、関連URLにある 石井溥著「東京外国語大学ネパール語研修テキスト」、石井溥著「東京外国語大学 ネパール語語彙集」を教科書として使用する。各自でダウンロードすること。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL） http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81968/1/A214.pdf .PDF(石井溥著「東京外国語大学ネパール語研修テキスト」) http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/82688 (石井溥著「東京外国語大学 ネパール語語彙集」)											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
新型コロナウイルス感染拡大により、ZOOMを使用した遠隔授業になる可能性がある。相談があればメール以外に授業時間前後に受け付けたい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85241 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語 (初級) Swahili I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語は、タンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。付属CDを利用して発音を学び、スワヒリ語の会話を聞き取り自ら表現する能力を向上させる。ただし難解な文ではなく日常会話の中で使用される具体的な表現を目標とする。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
<p style="text-align: right;">スワヒリ語 (初級) (2)へ続く</p>											

スワヒリ語（初級）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85242 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語 (中級) Swahili II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時間	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解し、口語的・実践的な表現の理解を向上させる 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----スワヒリ語 (中級) (2)へ続く-----											

スワヒリ語（中級）(2)

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85243 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アムハラ語 （初級） Amharic I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 若狭 基道			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アムハラ語は、エチオピアにおける主要言語のひとつである。独自の文字を有し、同国のアムハラ州や、首都アジスアベバをはじめとする都市を中心に広く通用する。本講義では、アムハラ語の基礎的な会話、文法、文字、に加えて、言語の使用と関連した地域文化を扱う。											
【到達目標】											
アムハラ語の基礎的な会話、文法および文字の習得を目指すとともに、言語の使用と関連した地域文化への理解を深めてもらう。											
【授業計画と内容】											
第1回 文字と発音1 第2回 文字と発音2 第3回 エチオピア文字の練習（兼基本単語） 第4回 コピュラ（「～である」）現在形 第5回 名詞の変化 第6回 動詞完了形 第7回 前置詞・後置詞 第8回 存在詞 第9回 言語のフィールドワーク 第10回 動詞未完了形 第11回 接尾代名詞 第12回 エチオピアの言語景観 第13回 動詞その他の形 第14回 派生形 第15回 テキスト購読（兼様々な従属節）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席と授業への参加状況にもとづいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 若狭基道 『ニューエクスプレスプラスアムハラ語』（白水社、2021年）ISBN:ISBN978-4-560-08918-7											
----- アムハラ語 （初級）(2)へ続く -----											

アムハラ語 （初級）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布プリントにあるエチオピア文字で書かれた例文を音読し、ヒントを基に意味を考えてから授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

講義についての相談・問い合わせはmotomichiwakasa@nifty.com宛にお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85247 LE48									
授業科目名 <英訳>		ガンダ語 (初級) Luganda I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 SEERA, Georgina			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
<p>This class is an easy introductory course to Luganda. Luganda is one of the Bantu languages that are spoken in a very large area of Africa. Luganda is a widely spoken language in Uganda, with more than 8 million native speakers. It has been estimated that nearly 70% of Ugandans (32 million people) can communicate in Luganda. In this course students will learn basic Luganda pronunciation, grammar, vocabulary, and phrases that would be useful for someone conducting fieldwork, volunteering, or working in Buganda society. The purpose of the course is to learn practical Luganda and to enhance the learner's ability to continue learning Luganda on their own. Also, the cultural characteristics of Buganda society, daily life, values, and modern times. Lectures will also be given on the observable social trends in Uganda.</p>											
【到達目標】											
<p>To learn and practice basic Luganda pronunciation, grammar, vocabulary, common phrases, and develop the ability to hold simple conversations.</p> <p>In addition, students will be able to understand basic information about contemporary trends in Ugandan society.</p> <p>This level-two class will also equip students with the skills necessary to continue learning Luganda on their own</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The class will be given weekly on Thursdays during the 3rd period.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Luganda alphabet; syllables and pronunciation (Challenge: Personal Pronouns and the Present Tense of the Verb) 2. Greetings (Challenge: The Noun and its Concords-Class I) 3. Expressing feelings, interests, and needs (Challenge: The modified Form of the Verb Stem: The Present Perfect Tense) 4. (Review test 1) Essential pronouns and “ To Be ” (Challenge: The Noun and its Concords-Class V) 5. Numbers/counting (Challenge: The verb-Near and Far Past, Near and Far Future, Narrative, ‘ Still ’ , ‘ So far ’ Tenses) 6. Some standard questions (Challenge: The Noun and its Concords-Class II) 7. Some common words (Challenge: Negative) 8. (Review test 2) Going places (Challenge: The Noun and its Concords-Class III and IV) 9. Shopping (Challenge: The Verb-Subjunctive, Imperative and Conditional) 10. Verb conjugation: present tense (Challenge: The Noun and its Concords-Classes VI and VII) 11. Time and Date (Challenge: Conjugations, Adverbs, Interrogatives, prepositions, and Miscellaneous words) 12. (Review test 3) Sentence construction (Challenge: The Noun and its Concords-Classes VIII, IX, and X) 13. Seemingly similar words (Challenge: Nga and Bwe) 14. To love and beyond (Challenge: Place, Locative, and Prepositions On and In) <p><Final test></p> <ol style="list-style-type: none"> 15. Feedback (Challenge: Verbs ‘ To Be ’ and ‘ To Have ’) 											
----- ガンダ語 (初級) (2)へ続く -----											

ガンダ語 （初級）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Evaluation will be based on the learner ' s performance in the 3 review tests (75%, each 25%) and final examination (25%). These review tests will be conducted at the beginning of the 4th class, the 8th class, and the 12th class respectively.

【教科書】

Stephen Nsubuga 『Luganda in 15 easy lessons』 (CreateSpace Independent Publishing Platform, 2014) ISBN:1500482439, 9781500482435

Nanfuka Margaret 『Luganda-English phrasebook for tourists』 (Fountain Publishers, 2003) ISBN: 9789970020638

We shall use these books concurrently to learn the principles of Luganda and to do oral practice

【参考書等】

（ 参考書 ）

J. D. Chesswas 『The Essentials of Luganda』 (Oxford University Press, 2002) ISBN:0193124351, 9780193124356

kasahorow 『Modern Luganda Dictionary: Luganda-English, English-Luganda』 (CreateSpace Independent Publishing Platform, 2014) ISBN:149938646X, 9781499386462

kasahorow 『102 Luganda verbs. Master the simple tenses of the Luganda Language』 (CPSIA) ISBN: 9781500877057

Students are free to refer to these both inside and outside the classroom

【授業外学修（予習・復習）等】

None

（ その他（オフィスアワー等） ）

Feel free to contact me if you have any questions, comments or suggestions.

Please make an appointment in advance by e-mail.

The email address is seera.georgina.7y [at]kyoto-u.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。